

寒さを吹き飛ばせ!!

第30回さむさむまつりが2月1日、公民館前駐車場で開かれました。

綱引き大会で、熱戦を展開したほか、雪のステージで繰り広げられたキャラクターショーや、長さが20m以上の雪の滑り台に大勢の子どもたちが歓声を上げていました。

この日は、時折突風が吹いたり、雪が降ったりするなど寒い天候でしたが、会場を訪れた人は、温かいうどんなどを食べ、まつりを楽しんでいました。



雪の滑り台(上)、お菓子の「福まき」(左)に大勢の子どもたちが歓声を上げていました

訓練子府太鼓同好会(右)の演奏で幕開けに、子どもたちが大に人気のキャラクターショーは大にぎわい(下)



綱引き大会優勝チーム

- ☆ジュニア部門 イエス・チーム・オバマ(訓小)
- ☆レディース部門 FUKUちゃんず(訓子府)
- ☆オープン部門 Kクラブ(訓子府)



居小の5、6年生ハチの生態観察全国で高評価



「養蜂新聞」が全国3位

居武士小学校の5、6年生が作成した壁新聞「養蜂新聞 オロムシチャレンジキッズ」が「子どもファーム・ネット全国交流会」(1月31日、東京)で全国農業協同組合中央会会長賞(全国3位)を獲得しました。

居小では、5、6年生の総合的な学習の時間で、菅野養蜂場の協力を得て、養蜂学習に10年以上も前から取り組んでいます。

毎年、学習の成果として壁新聞を作成していますが、今年度は、全国子どもファーム・ネット推進協議会が主催する子どもファーム・ネット活動コンクールに壁新聞を出品し、北海道代表として入選、全国交流会に出品されました。

5、6年生16人で作った壁新聞は、はちの巣のように六角形にした模造紙にミツバチの生態観察記録やはちみつ採集などの様子を書き、6枚をつなぎ合わせました。

全国交流会では、5、6年生5人が参加、養蜂作業に使う網のついた帽子(面布)をかぶり、はちみつや巣枠を持ち込み、新聞の内容などを発表。参加した6年生の井関直斗くんは「壁新聞を作るのは難しかったけれど、全国で評価されてうれしい」と話していました。

訓小児童5人がアルペンスキー全道大会へ

訓子府小学校5人の児童が、3月8日にキロロリゾート(後志支庁赤井川村)で開かれる「第34回スポーツハウスカップ争奪全道ジュニアアルペン決勝記録会」に出場します。

5人は、渡邊唯翔くん(訓小1年)、伊東ありすさん(訓小3年)、江部成彪くん(訓小4年)、堰代ゆきのさん(訓小4年)、伊東莉那さん(訓小6年)で、留辺蘂スポーツ少年団や北見市端野町のレーシングチームに所属し、1月の予選会(種目=ジャイアントスラローム)で好成績を収めました。

5人ともに、全道大会までさらに練習を重ね、「普段の練習の成果を全道でも出し切ってきます」と話していました。



「全道でもがんばる」と話す(前列左から)伊東ありすさん、堰代さん、伊東莉那さん(後列左から)渡邊くん、江部くん

無火災表彰 訓子府消防団が2年連続受賞

平成20年に訓子府町内での火災発生がゼロだったことにより、北海道消防協会網走地方支部北見分会(1市2町8消防団で構成)から1月21日、訓子府消防団(坂井悠紀団長、団員90人)が表彰されました。

「無火災」の表彰は、住宅火災の半焼以下や野火を除いた火災が発生しなければ対象となります。平成19年に続いての2年連続受賞で、団員の防火思想普及活動や防火査察員、町民の方の啓発活動が効果を上げました。

訓子府消防団は、平成3年に表彰対象外の半焼以下や野火などを含めても全く火災がなく、無火災表彰を受けています。その翌年に火災が発生したことなどから、団員による防火活動や実践会地区に防火査察員を配置し、啓発活動を展開するなど、「火災のない町」をめざしています。

2年連続の受賞は、同消防団の歴史で初めてのことです。坂井団長は「団員の徹底した防火活動や町民の方の防火意識の向上だと思っています」と話していました。

